

製品名: ADH7 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab06629**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	人間、猿
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	40kDa

抗原情報

遺伝子名	ADH7
別名	ADH7; Alcohol dehydrogenase class 4 mu/sigma chain; Alcohol dehydrogenase class IV mu/sigma chain; Gastric alcohol dehydrogenase; Retinol dehydrogenase
遺伝子 ID	131.0
SwissProt ID	P40394
免疫原	抗血清はヒト ADH7 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 211-260

背景

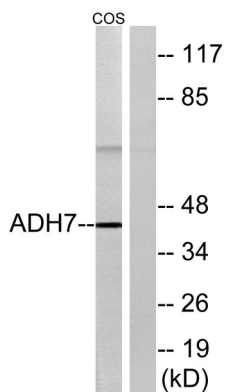
この遺伝子は、アルコール脱水素酵素ファミリーに属するクラス IV アルコール脱水素酵素 7μ サブユニット（シグマサブユニット）

をコードしています。このファミリーのメンバーは、エタノール、レチノール、その他の脂肪族アルコール、ヒドロキシステロイド、脂質過酸化生成物など、多様な基質を代謝します。この遺伝子によってコードされる酵素は、エタノール酸化には非効率的ですが、レチノール脱水素酵素として最も活性が高いため、細胞分化に重要なホルモンであるレチノイン酸の合成に関与している可能性があります。この遺伝子の発現は肝臓よりも胃ではるかに多く見られるため、他の既知の遺伝子ファミリーメンバーとは異なります。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。 [RefSeq 提供、2009年10月]、触媒活性: アルコール + NAD(+) = アルデヒドまたはケトン + NADH。、補因子: サブユニットあたり2個の亜鉛イオンを結合する。、補因子: 亜鉛。、機能: 細胞分化に重要なホルモンであるレチノイン酸の合成におけるレチノール酸化に機能する可能性がある。中鎖化合物 (オクタノール) および芳香族化合物 (m-ニトロベンズアルデヒド) が最適な基質である。エタノールは良い基質ではありませんが、消化管内で高濃度に達すると、エタノールの酸化に役割を果たし、初回通過エタノール代謝に寄与します。、その他: ヒトには7つの異なる ADH アイソザイムがあります。3つはクラス I: アルファ、ベータ、ガンマに属し、1つはクラス II: パイに属し、1つはクラス III: カイに属し、1つはクラス IV: ADH7 に属し、1つはクラス V: ADH6 に属します。、類似性: 亜鉛含有アルコール脱水素酵素ファミリーに属します。クラス IV サブファミリー。、サブユニット: ホモ二量体。、組織特異性: 胃で優先的に発現します。、

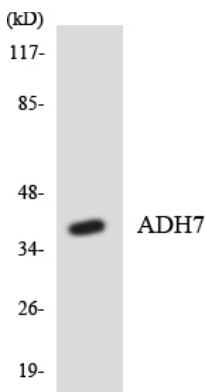
研究分野

解糖系/糖新生; 脂肪酸代謝; チロシン代謝; レチノール代謝; シトクロム P450 による異物代謝; 薬物代謝;

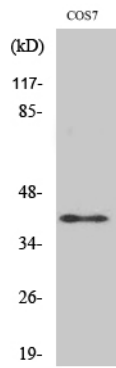
画像データ



ADH7 抗体を用いた COS7 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



ADH7 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



ADH7 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析